様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １５ 日現在

機関番号：３２５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2020
課題番号：１５Ｋ０３９６２

研究課題名（和文）岡山孤児院の2つの災害での貧孤児収容と同院での個別支援の歴史的役割の総合的研究

研究課題名（英文）A comprehensive study about the historical role of Okayama orphanage about orphan's admission and individual support from its two disaster experiences.

研究代表者
菊池　義昭（KIKUCHI, yoshiaki）

淑徳大学・長谷川仏教文化研究所その他部局等・嘱託研究員その他

研究者番号：５０２５８９２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：研究の成果は、①岡山孤児院が濃尾大震災で収容した震災孤児の、その後の音楽幻燈隊での活躍と、同院の財政を支えた音楽幻燈会や賛助員募集に関する論文を7編にまとめた。また、②東北三県凶作で収容した貧孤児の、その後の農場学校での教育と自立過程に関する論文を15編にまとめた。さらに、このような貧孤児への生活と教育の支援が、子どもの権利保障の源流の１つになり、大正期の児童愛護デーの運動に繋がると仮定し、児童愛護デーの運動に関する論文を4編にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、岡山孤児院が2つの災害で収容した貧孤児の、同院での支援の内容や活躍の実態を解明し、そのような実践と活動の内容が子どもの権利保障の源流の1つであることを分析し、さらに、先のような子どもの権利保障の源流が大正期の児童愛護デーの運動に繋がることを解明、分析したところに、学術的な意義や社会的な意義が内在していると考える。

研究成果の概要（英文）：There are two fruits of this study about Okayama orphanage: 1. I had written seven articles of orphan children's activity about music and magic lantern band which Okayama Orphanage produced, and their concert under their new benefactor's recruit that supported the orphanage's financial situation when Okayama Orphanage rescued orphan children suffering from the Nobi earthquake. 2. And then I presented fifteen articles about orphan children admitted to Okayama orphanage because of lean crops in the three prefectures of the Tohoku region, and their assistance for self-reliance in the agricultural school of Okayama orphanage. In addition, assuming that such livelihood and educational support for orphan children will be the mainstream of guaranteeing children's rights in the Taisho area, I have studied four articles about movement of the day for the prevention of cruelty to children in Japan.

研究分野：社会福祉

キーワード：岡山孤児院　石井十次　濃尾大震災　東北三県凶作　音楽幻燈隊　賛助員　農場学校　子どもの権利保障

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

筆者は、東日本大震災に遭遇し、約 4 年が過ぎた時点でも避難者が約 22 万人、仮設住宅での生活者が約 9 万人も存在する中で、災害支援における長期的、継続的支援が今日的課題であると痛感した。そのような状況と背景の中で、社会福祉の歴史研究に取り組む立場から貢献するには、過去の災害において、最も悲惨な状況に置かれた震災孤児や貧孤児が孤児院等に収容され、どのような支援を受けて自立していったかを解明し、災害支援における長期的、継続的支援の歴史的役割を、岡山孤児院の実践事例を通して立証することが必要であると認識し、本研究に取り組むことにした。

２．研究の目的

そこで、これまでの岡山孤児院史研究を振返る中で再確認したことは、岡山孤児院では 1891（明治 24）年 10 月 28 日に起こった濃尾大震災では 115 人の震災孤児を収容し、1906（同 39）年の東北三県凶作では 825 人の貧孤児（東北児）を収容したことを解明したが、この 2 つの災害時に収容した貧孤児などへの個別支援としての養護実践の内容や自立過程の実態分析は、実施していないことを自覚した。このため、本研究では、先の震災孤児や貧孤児への養護実践の内容とその自立過程の実態分析などを通して、災害史研究における慈善事業（社会福祉）の歴史的役割とその固有性を事例的に解明することを目的にした。

３．研究の方法

そのための研究方法は、岡山孤児院が、濃尾大震災や東北三県凶作で収容した時期の同院の運営や財政を含む資料および、震災孤児や貧孤児を含む院児の支援に関するに資料を収集し、それらの資料を使って、2 つの災害時に収容した震災孤児や貧孤児への個別支援としての養護実践の内容を解明し、彼らの自立過程の実態を分析して、その歴史的役割と固有性を論証する方法で研究に取り組むことにした。特に、その歴史的役割と固有性の特質が、子どもの権利保障の源流の 1 つとして位置付くか否かまでの分析を試みることにした。

４．研究成果

濃尾大震災や東北三県凶作で収容した時期の同院の運営や財政を含む資料および、震災孤児や貧孤児を含む院児の支援に関するに資料を収集し、その中から震災孤児や貧孤児を含む院児への個別支援としての養護実践の内容および、彼らの自立過程の実態に関する資料を抽出して整理していくと、震災孤児の中に同院の音楽幻燈隊で活躍し、各地を巡回し同院の重要な財源の確保に貢献すると同時に、幻燈画を通して同院の養護実践の内容を参観者などに啓蒙した事実が確認でき、その実態を中心に解明し、分析することにした。

さらに、東北児の場合は、石井十次院長が 1908（同 41）年から彼等を含む 600 人程を茶臼原孤児院に移転し、農業での自活を考え、道半ばにして永眠し、その遺志を大原孫三郎が引き継ぎ、農場学校を設立し東北児を含む青年院児の殖民としての自立を模索した事実が確認でき、その実態を中心に解明し、分析することにした。

そして、前者の濃尾大震災で収容した震災孤児 3 人を含む音楽幻燈隊の活躍と、同院の財政を支えた音楽幻燈会や賛助員募集などの実態に関する論文を 11 編にまとめた。その内容を要約すると、同幻燈隊は 1898（同 31）年 2 月 6 日の尾道町での最初の音楽幻燈会を開催し、その後愛媛県の今治町から同県の瀬戸内海沿岸の市町村を経て高知県内の計 34 市町村で巡回活動を実施したことを解明した。また、次は、1899（同 32）年 5 月 24 日、25 日の岡山県高梁町から山陰地方の島根県内等の市町村を経て広島市までの計 15 市町村で 2 回目の巡回活動（運動）を実施し、その後、岡山県内や香川県内の市町村および神戸市の計 14 市町村で巡回運動を実施したことを確認した。

さらに、1899 年 4 月中旬からは、東京市と横浜市で約 1 ヶ月間に 14 ヶ所で同幻燈会を開催していたことが確認できた。また、この 14 ヶ所のうち、東京市の青年会館と中央会堂での開催および横浜市の港座での開催は、従来のように一般民衆などを対象とした大規模な開催であったが、その他の 11 ヶ所での開催は、各教会の関係者や日本の政官財界の有力者等の上流階級の関係者を対象にした小規模な開催であった。具体的には、数寄屋橋教会、指路教会、霊南坂教会、番町教会、フレンド教会等での開催であり、渋沢栄一邸、大隈重信邸、華族会館、樺山資紀邸での開催であった。

このため、青年音楽隊員への教育的な影響は、日本の中心である東京市等で約 1 ヶ月間生活し、毎日のように市内の教会や日本の政官財界の有力者宅等で演奏し、各所で賞賛を受け、今までには体験したことのない「貴族社会」の人達に出会うなどを経験し、このような経験を通して、彼等の中に新しい視野の拡大と社会への積極的な進出に対する希望と自信が芽生えたと想定できた。

そして、このような音楽幻燈隊の巡回運動は、同院の養護実践の量と質を担保するための有力な財源の確保に貢献し、また、効率的な賛助員募集の方法にもなった。さらに、各地で

の音楽幻燈会の開催は、同院の養護実践の現状を参観者等（一般民衆）に紹介して、社会の同情を呼び起こして啓蒙した。また、啓蒙を受けた個人として、同会の開催の協力者、発起者、地方委員、賛成者、参観者が特定でき、地方委員は同院を支援する継続的なネットワークの拠点になったことが確認できた。

さらに、その啓蒙の具体的な内容は、東京市での開催の時に『報知新聞』が 2 つの連載記事を掲載した事例が注目できた。前者では石井十次著『岡山孤児院』の内容を引用、参照する形で同院の内容を一般読者に正確に啓蒙していたことが確認できた。また、連載記事の内容は、石井院長が同幻燈会で幻燈画を用いて説明した、岡山孤児院の創立の由来、目的、養育部、教育部、実業部、同院の維持法などの説明と一致する可能性がある判断できた。このため、記事の内容または石井院長の説明内容に含まれた設立時やその後のエピソードなどを通して一般読者や参観者等が、時代を超えた新しい生命観や平等観の片鱗に一瞬触れる啓蒙にもなったと仮定できた。さらに、後者では、同幻燈会での石井院長が説明する「孤児の来歴」を、報知新聞社の記者が参観し、このうちから 4 人の来歴を、講談調の物語風にまとめて紹介していたことが確認できた。このため、石井院長の同幻燈会での説明内容がほぼ判明し、それ故にこの内容または説明は、一般読者や参観者等に、「悲惨」で「過酷」な来歴を持つ棄児、孤児、貧児が岡山孤児院で立派に養育されていることを再確認させ、同院の慈善事業の社会的役割が、彼等のような親等の血縁者や地域共同体から虐げられた存在の生命を守り、生活と教育により彼等の発達と成長を保障する場（役割）であるとことを啓蒙し、時代を超えた新しい生命観や発達観の片鱗に一瞬触れる啓蒙を再度受けるものにもなったと仮定できた。さらに、このような事実が、院児（孤児等）の発達と成長および人格形成を保障する、子どもの権利保障の源流の一つに繋がると理解できた。

そして、各地を巡回し音楽幻燈会を実施した青年院児他への教育的な影響や担当職員の慈善事業の実践精神（思想）の形成（獲得）の内容についても分析できた。

一方、東北三県凶作で収容した貧孤児（東北児）の、その後の農場学校での教育と自立過程に関しては論文を 15 編まとめた。その内容を要約すると、石井院長が東北児を含む 600 人程を茶臼原孤児院に移転し、農業での自活を考えたが、道半ばにして永眠し、その遺志を大原孫三郎が引き継ぎ、東京帝国大学出身の松本圭一に農場学校を設立させ、東北児を含む青年院児の殖民として自立するまでの教育実践を実施したことを解明、分析した。

つまり、1915（大正 4）年 4 月 17 日から松本圭一校長のもとで本科生の授業を開始した農場学校は、同年末の時点で生徒数は 13 人であったが、翌年末には 32 人、1917（同 6）年末は 43 人、1918（同 7）年末は 55 人に増加し、1917 年 4 月 1 日には第 1 回卒業生として 12 人が卒業した。このため、卒業生の中から殖民となることを希望する者のために、樫野第一練習農場を開設し殖民としての独立に着手し、続いて柳井迫第二練習農場も設けて卒業生が殖民としての独立に着手した。

そして、1919（同 8）年 5 月 1 日からは、茶臼原尋常小学校の補習科を農場学校普通科に、同校本科を同校農学科に改変した。この改変により生徒数が変更になり、1919 年末には農場学校普通科 1 学年 14 人、同 2 学年 6 人、同農学科 1 学年 21 人、同 2 学年 17 人の計 58 人になった。また、同年度の卒業生のうち殖民としての独立準備をしている者は、農業見習生を含め 22 人であった。

1920（同 9）年になると、普通科が 3 学年に、農学科には予科が加わり、2 学年の中に別科と本科が生れ、実習期生が独立の準備をしていた。その結果同年末には、樫野第一練習農場が昨年より 2 戸増加し 8 戸（20 人）に、柳井迫第二練習農場は 6 戸増加して 8 戸（23 人）になり、茶臼原農村全体では 31 戸（142 人）に拡大した。しかし、1921（同 10）年 5 月 17 日に松本校長が国際労働会議に出席のためジュネーブへ出発し、同年末の農場学校農学科は 14 人に減少し、1922（同 11）年 1 月に廃止となり、また、同校普通科も 12 月で中止され、農場学校は閉校したのであった。

このように、農場学校の教育実践は、約 7 年間であったが、1923（同 12）年の時点では表 1 のように樫野第一練習農場から名称を変更した第二樫野殖民村に 12 家族と 4 人の独身者が殖民として独立し、柳井迫第二練習農場から名称を変えた第三柳井迫殖民村に 7 家族が殖民として独立していたことが確認できた。また、この殖民に中の 18 人が東北児で、独立の方法は岡山孤児院から農地を借用し、小作料を支払いながら、年賦払いで農地を取得する方式で、自作農への独立自活を進めていたことも確認できた。

このため、同院の養護実践が、殖民として独立し、結婚して家族を持って生活という段階までの、院児のライフステージを具体化していたことが立証できた。それ故に、岡山孤児院の養護実践の全体像は、乳幼児の里預制に始まり、学齢児の家族制度による生活と同院尋常高等小学校での教育、さらに、農場学校での青年院児への農業教育を経て、殖民（社会人）として独立し、結婚して家族を持って生活するという、院児のライフステージの各時期に対応する体系的な養護実践システムに到達していたことが証明できた。そして、このような証明により、同院の養護実践の体系は、子どもの権利保障の源流の 1 つであると理解できた。

1923（大正 12）年前後の第二樫野殖民村の殖民の農場学校卒業等と農地などの小作内容＜表 1＞

氏　名	年　齢	農業見習	農場学校	同校卒業後	結婚後殖民	家族構成	田　面　積	田小作料
福 23- 渡	26 歳 4 ヶ月	7 年間	1 回卒業	5 年 1 ヶ月	4 年 4 ヶ月	夫婦子 1 人	1 町 1 反 2 畝 8 歩	5 石 3 斗 7 升 9 合
岩 11- 中	27 歳 9 ヶ月	7 年間	1 回卒業	5 年 1 ヶ月	4 年 4 ヶ月	夫婦子 1 人	7 反 20 歩	4 石 6 斗
						(1923 年度)	1 町 1 反 7 畝 15 歩	7 石 5 斗 9 升
宮 406- 伊	27 歳 4 ヶ月	4 年間	1 回卒業	5 年 1 ヶ月	4 年 4 ヶ月	夫婦子 2 人	7 反 2 畝 2 歩	4 石 6 斗 6 升 4 合
						(1923 年度)	1 町 2 反 4 畝 18 歩	7 石 8 斗 2 升 3 合
島 - 若	26 歳	7 年間	1 回卒業	5 年 1 ヶ月	4 年 2 ヶ月	夫婦子 2 人	8 反 9 畝 8 歩	5 石 6 斗 4 升 3 合
岡 - 河	27 歳 3 ヶ月	7 年間	1 回卒業	5 年 1 ヶ月	4 年 2 ヶ月	夫婦子 2 人	9 反 3 畝 22 歩	5 石 7 斗 2 升 3 合
岡 - 大	24 歳 1 ヶ月	(8 年間)	3 回卒業	3 年 6 ヶ月	1 年 5 ヶ月	夫婦子 1 人	6 反 5 畝 27 歩	2 石 5 斗 1 升 4 合
岡 - 竹	25 歳 10 ヶ月	10 年間	4 回卒業	2 年 6 ヶ月	1 年 1 ヶ月	夫婦	8 反 7 畝 4 歩	5 石 5 斗 5 合
福 168- 小	25 歳 11 ヶ月	9 年間	5 回中退		2 年 4 ヶ月	夫婦子 1 人	有（未確定）	4 石 5 斗 4 升 6 合
宮 125- 中	24 歳 4 ヶ月	9 年間	5 回卒業	2 年 1 ヶ月	11 ヶ月	夫婦	1 町 5 畝 26 歩	3 石 9 斗 5 升 3 合
福 14- 西	25 歳 11 ヶ月	9 年間	5 回卒業	2 年 1 ヶ月	11 ヶ月	夫婦	9 反 2 畝 11 歩	4 石 9 斗 6 升 7 合
滋 - 黄	26 歳 4 ヶ月	9 年間	5 回卒業	2 年 1 ヶ月	2 ヶ月	夫婦	7 反 1 畝 3 歩	2 石 8 斗 5 升 3 合
福 113- 高	25 歳 6 ヶ月	10 年間	5 回卒業	2 年 1 ヶ月	2 ヶ月	夫婦	4 反 7 畝 5 歩	1 石 8 斗 5 升 6 合
福 - 塩	26 歳 1 ヶ月	(11 年間)	3 回卒業	3 年 6 ヶ月		独身	7 反 6 畝 16 歩	2 石 5 斗 1 升 1 合
京 - 西	21 歳 11 ヶ月	2 年間	4 回卒業	2 年 6 ヶ月		独身	6 反 6 畝 27 歩	4 石 3 斗 3 升 7 合
福 250- 佐	22 歳 10 ヶ月	2 年間	4 回卒業	2 年 6 ヶ月		独身	3 反 80 歩	不明
兵 - 山	25 歳 3 ヶ月	5 年間	5 回卒業	2 年 1 ヶ月		独身	6 反 28 歩	2 石 2 斗 7 升 1 合

氏　名	1 反歩当り	畑　面　積	畑 小 作 料	1 反歩当り	全耕作面積	全 小 作 料	菅	見	植	原
福 23- 渡	4 斗 8 升	4 反 2 畝 5 歩	2 斗 4 升	5 升 7 合	1 町 5 反 4 畝 13 歩	5 石 6 斗 1 升 9 合	有	有	有	有
岩 11- 中	6 斗 5 升 7 合	1 反 3 畝 28 歩	3 斗 1 升 9 合	2 斗 4 升 5 合	8 反 3 畝 48 歩	4 石 9 斗 1 升 9 合		有	有	有
	6 斗 4 升 9 合	2 反 4 畝 8 歩	4 斗 3 升 5 合	1 斗 8 升 1 合	1 町 4 反 1 畝 23 歩	8 石 6 升 6 合				
宮 406- 伊	6 斗 4 升 8 合	有（未確定）	1 斗	未確定	未確定	4 石 7 斗 6 升 4 合		有	有	
	6 斗 3 升 1 合	有（未確定）	1 斗 5 升 3 合	未確定	未確定	7 石 9 斗 7 升 6 合				
島 - 若	6 斗 3 升 4 合	8 反 15 歩	1 石 5 斗 9 升 7 合	2 斗	1 町 6 反 9 畝 23 歩	7 石 2 斗 4 升	有	有	有	
岡 - 河	6 斗 1 升 5 合	3 反 6 畝 16 歩	3 斗 6 升 1 合	1 斗	1 町 2 反 9 畝 38 歩	6 石 8 升 4 合	有	有	有	
岡 - 大	3 斗 9 升 1 合	8 反 7 歩	7 斗 2 合	8 升 8 合	1 町 4 反 5 畝 34 歩	3 石 2 斗 1 升 6 合		有	有	
岡 - 竹	6 斗 3 升 8 合	3 反 8 畝 14 歩	3 斗 3 升 7 合	8 升 9 合	1 町 2 反 5 畝 18 歩	5 石 8 斗 4 升 2 合	有	有	有	
福 168- 小	未確定	有（未確定）	田に含む	不明	未確定	4 石 5 斗 4 升 6 合	有	有	有	
宮 125- 中	3 斗 7 升 7 合	有（未確定）	不明	不明	未確定	不明	有	有	有	有
福 14- 西	5 斗 4 升	有（未確定）	不明	不明	未確定	4 石 9 斗 6 升 7 合	有	有	有	有
滋 - 黄	4 斗	有（未確定）	不明	不明	未確定	不明	有	有	有	
福 113- 高	3 斗 9 升 5 合	有（未確定）	不明	不明	未確定	不明	有	有	有	有
福 - 塩	3 斗 3 升	3 反 4 畝 21 歩	2 斗 6 升 5 合	7 升 8 合	1 町 1 反 37 歩	2 石 7 斗 7 升 6 合		有	有	
京 - 西	6 斗 5 升 7 合	有（未確定）	不明	不明	未確定	不明	有	有	有	有
福 250- 佐	不明	1 反 1 畝 26 歩	不明	不明	4 反 2 畝 26 歩	不明	有	有	有	
兵 - 山	3 斗 7 升 9 合	1 反 1 畝 10 歩	4 斗 6 升 8 合	4 斗 2 升 5 合	7 反 1 畝 38 歩	2 石 7 斗 4 升	有	有	有	有

〈注〉「年齢」、「農場学校卒業後」と「結婚後殖民」の年数および「家族構成」は 1923 年 4 月の時点を基準にした。「同校卒業後」の年数には「結婚後殖民」の年数を含めた。また、「農業見習」の期間は、＜註＞の 9 ）の資料を引用、参照し、カッコ内は推定。「田面積」以後は、『三納三財卒業生関係土地調査』より作成し、「1 反歩当り」の分母は畝までの面積とし、以下は四捨五入した。「菅」は菅場、「見」は見張地、「植」は植林地、「原」は原野の略。福 23-渡には、他に小作田 9 畝 17 歩あり、小作料 7 斗 8 升が加わる。岩 11-中の 1923 年度の小作料に誤記があった。未確定は筆者が田畑の面積を確定できないもの。

第三柳井迫殖民村の殖民の農場学校卒業等　＜表 2＞

氏　名	年　齢	農業見習	農場学校他	同校卒業後	結婚後殖民	家族構成
岡 - 江	26 歳 10 ヶ月	7 年間	1 回卒業	5 年 1 ヶ月	3 年 2 ヶ月	夫婦子 2 人
福 243- 池	24 歳 2 ヶ月	7 年間	2 回卒業	4 年 1 ヶ月	3 年 2 ヶ月	夫婦子 1 人
福 198- 河	25 歳 3 ヶ月	7 年間	2 回卒業	4 年 1 ヶ月	3 年 2 ヶ月	夫婦子 1 人
福 44- 佐	24 歳 11 ヶ月	6 年間	2 回卒業	4 年 1 ヶ月	3 年	夫婦子 1 人
長 - 松	29 歳 2 ヶ月	(13 年間)	農業見習生		4 年 2 ヵ月	夫婦子 2 人
宮 293- 佐	26 歳 1 ヶ月	(11 年間)	農業見習生		3 年 1 ヶ月	夫婦子 1 人
宮 39- 村	25 歳 6 ヶ月	(10 年間)	農業見習生		3 年 1 ヶ月	夫婦子 1 人

〈注〉「年齢」、「農場学校卒業後」と「結婚後殖民」の年数および「家族構成」は 1923 年 4 月の時点を基準にした。また、「同校卒業後」の年数には「結婚後殖民」の年数を含めた。さらに、上記の内容は「農業見習」の期間を含め、〈註〉の（9）の資料を引用、参照し、カッコ内は推定。

さらに、先のような、貧孤児等への生活と教育の支援が、子どもの権利保障の源流の１つとなり、大正期の児童愛護デーの運動に繋がると仮定し、児童愛護デーの運動に関する論文を５編にまとめた。また、その研究成果に内容は、次のようになる。

児童愛護デーの運動の発端は、日本幼稚園協会の湯原元一会長の発案で「幼児教育の大切なことを出来るだけ広く、世間に知らせたい」と考え、全国の各小学校や幼稚園等で「子供

を中心とした会を開く」よう提案し、1921 年 4 月 23 日に東京市内で「児童保護宣伝」を実施したことからであった。さらに、同協会では、「5 月 5 日、6 日、7 日この日ぞ、全国児童愛護の宣伝日」等の檄を全国に飛ばし、児童愛護デーを 5 月 5 日前後に全国各地で実施する条件が整うことになったと理解できる。同時に、先の檄を待たずに、各地で自発的に「非常の熱心を以て計画」し、特に大阪市では 5 月 5 日、6 日、7 日の 3 日間大阪市民館児童愛護デー同盟本部による「コドモ愛護デー」が実施され、その中で大阪児童愛護連盟も活動に着手した。

その後、全国各地で、児童愛護デーの運動が実施されるようになり、1921 年には 2 府 3 県 5 市 3 町で実施し、1922 年には 3 府 16 県 1 郡 27 市 10 町 2 村へと大幅に拡大してくことが確認でした。さらに、1923 年は、1 道 3 府 15 県の 20 市 17 町 1 村の計 38 団体が実施し、1924（同 13）年は中華民国の青島と 1 道 3 府 13 県の 22 市 20 町 7 村で実施されていたことを確認した。1925（同 14）年は、朝鮮（京城府）と 1 道 2 府 10 県の 9 郡 22 市 20 町 20 村で開催が確認でき、1926（同 15）年は 1 道 3 府 6 県の 2 郡 9 市 22 町 16 村で 54 回の開催が確認できた。

そして、1926 年は、最も多くの開催が確認できたのは山口県で、官民一体の山口県児童愛護連盟が主導し、全郡市町村で実施したため、今回は 1 郡 1 市 12 町 9 村での開催とその活動内容が確認できた。2 番目は、長野県で、愛国婦人会長野支部が県内各地で第 4 回康児童共進会等の、多くの活動を年間通して実施していた。3 番目は大分県で、計 7 郡市町村の小学校等で多様な活動を実施し、4 番目は北海道の 5 町村での育児審査会等の開催で、岩見沢町は 4 回目であった。5 番目は岡山県で、4 町で健康児共進会等を、済世顧問制度の一翼を担う済生会などが取り組み、倉敷町では 5 回目の開催であったが、昨年の岡山県児童愛護連盟による全県的な運動は実施しなかった。その他、福岡県では、福岡日日新聞社主催で、九州帝国大学医学部小児科が第 6 回赤ン坊会を全県的に開催し、継続していた。

さらに、東京市では、大阪児童愛護連盟が赤ちゃんの審査会を開催し、日本児童愛護連盟の第 1 回連絡大会が開催され、政治と行政の中心地に全国的な児童愛護デー運動を推進する地理的、社会的条件が整備されつつあった。それと軌を一にして、昨年 12 月 6 日に皇孫照宮成子内親王殿下が誕生し、それを記念して、東京日日新聞社や大阪毎日新聞社が、皇孫御誕生記念こども博覧会を、商業資本を活用して開催し、東京市で 46 万人以上、京都市で 150 万人以上の児童や一般民衆が観覧し、一大社会現象を引き起こし、国の政治や行政を巻き込みながら、児童愛護の機運を醸成したと理解できた。

そして、このような前提条件（背景）の中で、12 月 2 日から 4 日まで第 1 回全国児童保護事業会議が開催され、翌 1927（昭和 2）年 5 月 5 日に、全道府県で乳幼児愛護デーを開催することが決議され、児童愛護デーの運動は、新たな段階へ移行することになると理解できた。

さらに、個々の活動内容の効果としての特徴を見ると、一番多かったのが新聞報道等 54 件、2 番目が赤ん坊審査会等 27 件、3 番目が講演会等 23 件、4 番目が健康診断（口腔診断を含む）15 件などと続くことが確認できた。このため、母親と家族の養育意識を競争的、保健的、教育的に啓蒙し、子どもの健康と成長を促進し、一般民衆への啓蒙にも相乗的効果のある活動が、中心になって行く特徴が理解できた。

また、親と家族を含む一般民衆の中に、「子どもの存在そのもの重要性を理解する」意識または認識が引続き形成され、このような意識または認識の中に、子どもの権利もしくは権利保障の萌芽が外形的に類推できた。そして、もう一方では、家の宝から国の宝として「子どもが重要な存在」とする啓蒙活動も並行して実施されたことが再確認できた。特に、皇孫御誕生記念こども博覧会や大阪児童愛護連盟の赤ちゃんの審査会等の、国が協力または後援する都市部の活動は、「第二国民」として国の宝であるが故に「子どもが重要な存在」とする啓蒙が強くなっていたことが理解できた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計24件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 菊池義昭	４．巻 なし
２．論文標題 岡山孤児院の音楽幻燈（活動写真）隊の北海道内での活動実態－1900(明治33)年8月の函館区と札幌区での活動内容を中心に－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 社会事業史学会第47回大会報告要旨・論文集	６．最初と最後の頁 189頁～204頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊池義昭	４．巻 20号
２．論文標題 岡山孤児院の音楽幻燈（活動写真）隊の北海道内の巡回運動の実態－1900（明治33）年9月からと1903（同36）年8月からの活動を中心に－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 石井十次資料館研究紀要	６．最初と最後の頁 116頁～210頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊池義昭、中嶌洋	４．巻 20号
２．論文標題 岡山孤児院の賛助員の全国的な支援ネットワークスステムの構築展開過程の実態とその歴史的役割－研究課題と時期区分および分析課題－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 石井十次資料館研究紀要	６．最初と最後の頁 80頁から115頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊池義昭、中嶌洋	４．巻 38号
２．論文標題 岡山孤児院の賛助員の全国的な支援ネットワークシステムの構築－1898年5月の着手から1899年までを中心に－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 東北社会福祉史研究	６．最初と最後の頁 1頁～39頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高松誠、菊池義昭	４．巻 38号
２．論文標題 昭和戦前期の岩手県における乳幼児愛護週間の実践とその史的展開	５．発行年 2020年
３．雑誌名 東北社会福祉史研究	６．最初と最後の頁 82頁～97頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊池義昭	４．巻 19号
２．論文標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校での7年目の教育実践と農学科の廃止	５．発行年 2018年
３．雑誌名 石井十次資料館研究紀要	６．最初と最後の頁 5頁から87頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊池義昭	４．巻 19号
２．論文標題 松本圭一の第３回国際労働会議での発言と行動の内容	５．発行年 2018年
３．雑誌名 石井十次資料館研究紀要	６．最初と最後の頁 88頁から146頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊池義昭	４．巻 ７号
２．論文標題 1924年の児童愛護デー関連の全国的な運動の内容	５．発行年 2019年
３．雑誌名 地域社会福祉史研究	６．最初と最後の頁 33頁から105頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 24巻第1号
2．論文標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校での5年目の教育実践の成果（2）－ある農場学校生の4月から8月の日誌分析を通して－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東日本国際大学研究紀要	6．最初と最後の頁 215頁から254頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 37号
2．論文標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校の廃止と茶臼原農村づくりへの移行	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東北社会福祉史研究	6．最初と最後の頁 26頁から59頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 18号
2．論文標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校での六年目の教育実践と卒業生の殖民への移行	5．発行年 2017年
3．雑誌名 石井十次資料館研究紀要	6．最初と最後の頁 4頁から69頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田代英美、佐藤繁美、菊池義昭	4．巻 第18号
2．論文標題 石井記念友愛社の事業展開と地域におけるネットワーク形成－児嶋草次郎理事長へのインタビューから－	5．発行年 2017年
3．雑誌名 石井十次資料館研究紀要	6．最初と最後の頁 210頁から234頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊池義昭	４．巻 第36号
２．論文標題 1923年の児童愛護デーの全国的な運動の展開	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東北社会福祉史研究	６．最初と最後の頁 1頁から59頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 玉井厚、菊池義昭	４．巻 第36号
２．論文標題 岡山孤児院音楽幻燈隊の弘前市での慈善音楽幻燈会の活動実態	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東北社会福祉史研究	６．最初と最後の頁 60頁から74頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊池義昭	４．巻 無
２．論文標題 日本の災害福祉の歴史とその役割に関する一提案	５．発行年 2017年
３．雑誌名 国際交流プレシンポジウム　東アジア諸国における災害福祉の歴史	６．最初と最後の頁 23頁から33頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊池義昭	４．巻 第23巻第1号
２．論文標題 1923年の大阪市でのコドモ博覧会とこども愛護デーの活動実態	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東日本国際大学研究紀要	６．最初と最後の頁 229頁から265頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 17号
2．論文標題 大正期の岡山孤児院の大原孫三郎理事の経営手法とその思想(1)－理事就任前の経営手法とその思想の内容分析を中心に－	5．発行年 2016年
3．雑誌名 石井十次資料館研究紀要	6．最初と最後の頁 6頁と73頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 50号
2．論文標題 明治期の濃尾大震災と東北三県凶作での役割	5．発行年 2016年
3．雑誌名 社会事業史研究	6．最初と最後の頁 37頁と64頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 35号
2．論文標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校での5年目の教育実践の内容と組織改編	5．発行年 2017年
3．雑誌名 東北社会福祉史研究	6．最初と最後の頁 14頁と62頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 第12巻
2．論文標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校での5年目の教育実践の成果（1）－ある農場学校生の1月から3月の日誌分析を通して－	5．発行年 2017年
3．雑誌名 東日本国際大学福祉環境学部研究紀要	6．最初と最後の頁 201頁から238頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 創刊号
2．論文標題 大正期の岡山孤児院の大原孫三郎理事の経営手法とその思想(1)－理事就任前の経営手法とその思想の内容分析を中心に－	5．発行年 2015年
3．雑誌名 大原孫三郎・總一郎研究	6．最初と最後の頁 29頁と51頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 第16号
2．論文標題 大正期の岡山孤児院の大原孫三郎理事の経営手法とその思想(2)－理事就任前後の経営手法とその思想の内容分析を中心に－	5．発行年 2015年
3．雑誌名 石井十次資料館研究紀要	6．最初と最後の頁 47頁と81頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 第34号
2．論文標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校での4年目の教育実践の内容とその実績	5．発行年 2015年
3．雑誌名 東北社会福祉史研究	6．最初と最後の頁 1頁と49頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊池義昭	4．巻 第12巻
2．論文標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校卒業生の殖民としての独立と結婚への取り組み	5．発行年 2016年
3．雑誌名 東日本国際大学福祉環境学部研究紀要	6．最初と最後の頁 1頁と17頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 菊池義昭
2．発表標題 岡山孤児院の音楽幻燈（活動写真）隊の北海道内での活動実態―1900(明治33)年8月から9月の慈善会の内容を中心に―
3．学会等名 社会事業史学会第47回大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 菊池義昭
2．発表標題 大分県内での岡山孤児院の音楽幻燈(活動写真)隊の活動実態－1900(明治33)年2月の中津町での活動内容を中心に－
3．学会等名 日本社会福祉学会第67回秋季大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 菊池義昭
2．発表標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校での7年 目の教育実践と同校の廃止
3．学会等名 社会事業史学会第46回大会
4．発表年 2018年

1．発表者名 菊池義昭
2．発表標題 1922年の岡山孤児院の茶臼原農場学校の廃止と殖民等の動向
3．学会等名 日本社会福祉学会第66回秋季大会
4．発表年 2018年

１．発表者名 菊池義昭
２．発表標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校での7年目の教育実践と同校の廃止
３．学会等名 社会事業史学会第45回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 菊池義昭
２．発表標題 1923年の児童愛護デーの全国的な運動の実態
３．学会等名 日本社会福祉学会第65回秋季大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 菊池義昭
２．発表標題 日本の災害福祉の歴史とその役割に関する一提案
３．学会等名 社会事業史学会国際交流プレシンポジウム
４．発表年 2017年

１．発表者名 菊池義昭
２．発表標題 明治期の濃尾大震災と東北三県凶作での役割
３．学会等名 社会事業史学会第44回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 菊池義昭
２．発表標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校での5年目（1919年）の教育実践の内容― 養護実践システムの後半の具現化を中心に ―
３．学会等名 日本社会福祉学会第64回秋季大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 菊池義昭
２．発表標題 岡山孤児院の茶臼原農場学校での４年目の教育実践の内容と２つの練習農場
３．学会等名 社会事業史学会
４．発表年 2015年

１．発表者名 菊池義昭
２．発表標題 大正期の岡山孤児院での大原孫三郎理事の2年目の経営とその実践内容
３．学会等名 大原孫三郎・總一郎研究会
４．発表年 2015年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	南雲　勇多 (NAGUMO yuuta) (00781543)	東日本国際大学・経済経営学部・特任講師 (31604)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関